

幼稚園の実情を踏まえて多様な動き
が経験できる活動内容や環境・教材の
工夫を行った事例

学校名 大阪市立旭東幼稚園（大阪府）
全校幼児数 68名（男児37名 女児33名）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 06（6953）3802
メールアドレス k1689110@ocec.ne.jp

- 1 研究のねらい
主体的な活動の中で体を十分に動かし、運動する楽しさを味わいながら多様な動きを経験する。
- 2 研究の概要
幼稚園の実情や幼児の実態を踏まえ、生活や遊びの中で多様な動きをとまなう楽しい活動や環境・教材の工夫をするとともに、一人一人のペースや体力に応じて、意欲を引き出す援助をする。

○実践プログラムの紹介

□地域や幼稚園等の実情を踏まえた特色ある遊びの例

○主体的な活動の中で意欲を引き出す環境・教材の工夫



○「海の探検コース」で多様な動きを経験する。
自分たちで場を作り、海を渡る橋や船に見立てて遊び方を工夫、個々のペースで取り組む循環性のある活動。



○用具を操作して様々な活動に挑戦する。
竹馬、一輪車、縄跳び、フープ、一本歯げた等、用具を操作しながら全身運動を楽しむ。

園内のどこで遊ぶと、どんな「パワーアップ」ができるかを話し合うことで、幼児が体の部位の名前を知り、意識して動かしていた。「パワーアップ」を合言葉にして、技術面だけでなく、心のパワーアップにつながるような教師の認めにより、クラス全体の喜びや達成感を高め、意欲につながるように援助した。どの子も汗をかいて精一杯動いていたのは自分たちで遊び場を作ったり、ステップアップできたりする環境があり、一人一人がやりたいことを選択できたからだと考えられる。

○家庭や地域と連携した取組み

鶴見緑地公園園外保育（年5回）＊親子園外保育でのミニ運動会、＊近隣の公園清掃（毎月1回）、＊ゲストティーチャーによる盆踊り指導、＊親子ドッジボール、保育所とのドッジボール大会、小学生との交流（プール、たこあげ）
（＊保護者も参加）

- ・ 5歳児は、用具の組み合わせを相談したり、竹馬や一輪車等に挑戦したりしながら友達と励まし認め合い、新たな目標をもって取組み続けている。4歳児は体を動かして遊ぶことがより好きになり、教師や友達、保護者に認めてもらうことで、これまで以上に自信や意欲をもって伸び伸びと活動するようになっている。

○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 道具の運搬や場づくり、片付け等、幼児が安全にできるように見守り必要に応じて援助した。
- 2 保護者とともに園内のヒヤリハットシートを作成し、運動遊具の使い方や安全な活動導線の確認をした。
- 3 保健室への来室状況から傾向をさぐり、課題を見つけて対応した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 竹馬や一輪車等に挑戦することによって起こるケガは増えたが、不注意によるケガが減少した。
- 2 保護者の体を動かす活動への関心がより高まり、多くの親子が園庭開放に参加するようになった。
- 3 運動能力測定の結果をもとに、よりバランスのとれた多様な動きを伴う活動の工夫に取り組む。

○ 研究内容

【立地条件を生かした取組み】

年間を通して鶴見緑地公園への園外保育に出かける



【近隣公園の清掃活動】

掃除用具を操作し、多様な動きを経験する



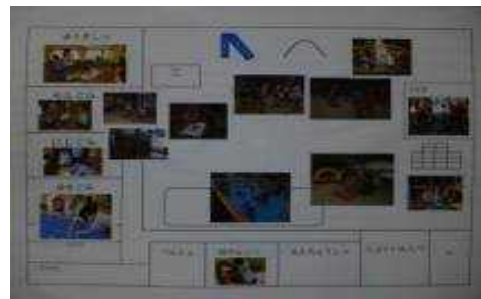
【体の部位ポスター】

自分の体の動きを意識して体を動かすことを楽しむ



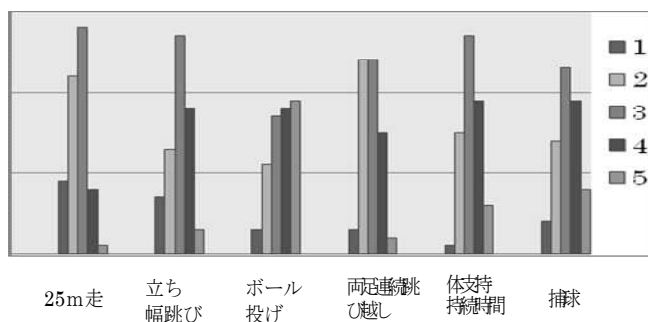
【遊び場マップの活用】

事前事後の話し合いや遊びの場のイメージの共有をする



【運動能力テストの結果より】

運動能力テストの評定結果より、3を平均と捉えて本園の課題を考察した。



- ・園庭が狭く「走」に課題がある。公園や近隣校等の広い場所で直線を走る経験ができるようにする等工夫する必要がある。
- ・遊びの場を作ったり片付けたりして、用具を自分たちで持ち運んだり、遊びのコースで登ったり、ぶら下がったりする経験を重ねたことで、体を支える力がついてきたことがわかる。また、コースの中に「跳」活動を多く取り入れたことによる成果も見られる。
- ・ドッジボール等で年間を通して「投」「捕る」動きをしてきた成果が見られる。

【今後の課題】

友達との関わりを重視した活動内容や環境構成を工夫する

本取組みにおける全ての活動の中で、幼児が互いに憧れの気持ちをもったり、認め合ったりしながら、刺激を受け合い、自ら挑戦する姿が多く見られたことから、友達との関わりと体を動かす活動の係に視点を置いて取り組んでいきたい。また、運動能力テストの結果からわかった課題解決に向けて、家庭や地域との連携をより深めながら活動内容の工夫に努めたい。